



所蔵資料紹介 ～和本から～

『都林泉名勝圖會』(秋里籬嶋著,寛政11(1799)年)より「七夕 池坊 立花」

今年も「旧七夕会池坊全国華道展一華の軌跡」が始まりました。ところでなぜ「旧七夕」なのか、知っていますか？かつては宮中で行われていた七夕の日の行事の一つとして花が立てられていました。その後、江戸時代に入り後水尾天皇の許可をいただき、六角堂で行われるようになったのです。旧暦から新暦になり次第に時期はずれてきましたが、今回は江戸時代の「七夕会」の様子がわかる資料を紹介いたします。

「都林泉名勝図会」とは「京都のガイドブック」です。寺院や庭園などが詳細な解説と精妙な挿絵で紹介された当時のベストセラー。もちろん六角堂も載っており、七夕会の様子が描かれています。絵入りで紹介されるほど当時は有名な年中行事だったのですね。

絵図には立花と鑑賞する人々が描かれています。袴の武士にお坊様、子どもも見に来ており、正座でかしまって鑑賞していますね。立花の絵は鑑賞している人よりも大きく、かなり大型の立花が生けられていたことがわかります。左頁上部には「七夕 池坊 立花 瓶花を二星に奉ると聞て」「わづかなる 瓶に百花を 池の坊 星の嫁入の嶋台にして」と書かれています。「二星」とは花を手向ける対象である牽牛星(彦星)と織女星(織姫)のこと、「星の嫁入り」は七夕の夜に二星が会合することに由来します。和歌の「池」は「(花を)いけ(る)」の掛けことばとなっています。「島台」は婚礼など祝儀の際の飾り物で、この場合はいけ花がそれに見立てられていたようです。「星に比べればわずかな数ですが、池坊がたくさんの花をいけました。織姫と彦星の婚礼のお祝いに捧げます」という意味になるでしょうか。

序文には「都の人すら名のみ聞及ぶにも見ずしらぬところのこゝらあなれば～居ながら幽邃の風景をめでのしませむの心をおこして」、跋文には「(絵師に)露違わはずうつさしめ」とあります。その試み通りの見て楽しく詳細なガイドブック。図書館から江戸時代の京都へタイムスリップしてみませんか。

表紙をよ～く見て下さい。山と鳥の群れ、風に靡く草が浮かび上がってきませんか？一見無地に見えますが凹凸で表現された繊細な表紙も見どころです。写真ではわかりにくいので、実際に見に来て下さいね。



展示資料:

- ・『都林泉名勝圖會 一ノ上,[一ノ下],二,三,四,五』
秋里籬嶋著,寛政11年

参考資料:

- ・『都林泉名勝図会』秋里籬嶋著・井口洋校訂,柳屋書店,1975年
- ・「花こみち」第631号,池坊華道会,2023年10月
- ・【池坊・六角堂】オンライン資料館「旧七夕会」:
https://www.youtube.com/watch?v=_TweOijkbTg

2代目専好が七夕に立てた立花図もあります。寛永8(1631)年と10(1633)年の7月7日に仙洞御所で立てられた立花は、図書館だより20号で紹介した『池房専好立花図』『専好立花の鑑賞』などで見ることができます。寛永10年の立花は松と竹を平行に立てた「二つ真」を彦星と織姫になぞらえています。こちらもぜひご覧ください。

学生からのおすすめ図書の紹介 ～トータルビューティーコース(1年生)編～

『そのままがいい』という本には176個の言葉が書かれています。苦しい時や誰かに優しい言葉をかけて欲しい時に読むと少し気持ちが落ち着く本だと思っています。私も実際に読んだ時、自分だけが抱えていることではなく、自分と同じ考えをしている人がいると分かり、気持ちが楽になりました。勉強や恋愛で悩んだり、辛い時に読むと救われることもあると思うのでぜひ多くの方に読んでもらいたいです。(杉本梨衣奈)



田口久人 / [著]
『そのままがいい
100万いいね!を
集めた176の言葉』
(11月末に入る予定です)

「お月さまと遊びたいな」と言う娘のために、お父さんが高い山に長いハシゴをかけてお月さまを取りに行くというお話です。ページが拡大し、長いハシゴや大きなお月さまが現れるなど迫力満点です。また、この本を通して、物の長さや高さ、大きさ、月の満ち欠けなども学ぶことができます。素敵な色彩で描かれた夜空の絵や、アイデア満載のかけががたくさんあり、子どもはもちろん大人もワクワクできる作品です。(蘭林萌音)



エリック=カール / さく
『パパ、お月さまとって!』
(11月末に入る予定です)

「リーディング・ライティング」授業課題として、環境文化学科1年生のみなさんに書いていただいた「おすすめ図書」の紹介は今号で終了です。文章力は書いてこそ上達しますし、書くには語彙力が欠かせません。小説、ノンフィクション、何でもよいのでたくさん読むことで語彙力、文章の組み立て方が身に付きます。そのために図書館を大いに活用してくださいね。最後に授業を担当された星先生から一言いただきました。

「みなさん自分のおすすめ図書をご紹介いただきありがとうございます。幼い時に読んだ本や最近読んだ小説など様々ありましたが、今後も人生を導いてくれるような本はまだ待っているはずですので、面白そうだった本はどんどん手に取っていただいて、推しの本を更新(アップデート)して行ってください。」

次回からは幼児保育学科1年生の学生さんによる「おすすめ図書の紹介」を掲載します。お楽しみに!